

# 中国、核弾頭3倍増へ

## 習氏了解 35年までに900発

中国人民解放軍が米軍との対立激化を視野に現有約300発の核弾頭を2035年までに3倍の900発まで増強する方向で検討していることが分かった。複数の中国筋が11日までに明らかにした。軍トップを兼ねる習近平國家主席も了解しているという。増強す

れば核弾道ミサイルの多弾頭化などにより対米抑止力が大きく向上する。中国は近年核戦力を強化しており、米国の報告書は35年に1500発に増える公算が大きいと予測していた。同予測よりは少ないが、核戦力の大幅な強化となり、中国が基本とする核の

先制不使用「政策が変更していく可能性もありそうだ。中国筋によると、軍最高指導機関、中央軍事委員会は昨年11月に会議を開き、ロシアのウクライナ侵攻でロシアと北大西洋条約機構(NATO)との正面衝突に至っていない原因はロシアの強力な核戦力が抑止方

になっているからだ」と分析、核戦力の重要性が再認識された。中国軍創設100年となる27年に5500発、35年に9000発へ増強する方向という。

昨年10月の第20回共産党大会で、習氏は「核戦力による強大な戦略的抑止体系を構築すると述べ、核戦力の増強を示唆していた。ストックホルム国際平和

研究所(SIPRI)は、22年1月時点で核弾頭数世界一のロシアが5977発、米国は5428発と推定。中国は敵國の核攻撃に報復可能な核戦力にとどめ

る「最小限抑止」戦略を取っているが、中央軍事委は米口との核弾頭数の「差が大きい」と判断しているという。中国は核弾頭数を公表していない。